

の使命は重大で、これからの先生の御活躍に期待するところが大きいと思われます。どうぞお元気で、よりたくさんの人々に地理の重要性、おもし

ろさを伝えていっていただきたいと願っています。  
(20回生)

## 「式」 次 第

小 玉 美 意 子

### 一 開会の辞——真面目な教え子

ただ今から、お茶の水女子大学・式正英教授の退官記念会を開催致します。

### 二 挨拶——優等生の教え子

この度、敬愛してやまない式正英先生が定年退官なさると伺い、まことに感慨無量でございます。私どもが在学していた頃、先生は三十代の働き盛り、さっそうとしておられました。ご専門の分野で次々とご業績をあげられる一方、学生の面倒を大変よくみて下さいました。そうした先生に励まされ、私も今日まで仕事を続けて来ることができました。本当に先生に教えて頂いて良かったと、感謝致しております。式先生、これからも益々お元気で活躍下さいませ。

### 三 乾杯——呑ん兵衛の教え子

私は当時からお酒が嫌いではなかったのですが、社会が女性の飲酒に好意的でなかったのが、控えていました。学生時代に先生とじっくり飲んでみたかったです。でも人生は長く、酒はうまい。今からでも遅くない。先生、よろしく願います。では、皆さん。式先生の研究者・教育者としての立派なご業績、そして、これからの益々のご発展・ご健康を祈念して、乾杯を致しましょう。乾杯！

### 四 歓談——無責任な教え子たち

私さァ、式先生って云うと、奥様のことが印象に残っているわ。地理科の卒業生で、とてもすてきな方だったじゃない。親しみがわいたわ□そういえば、渡辺光先生が、会食の時、ずいぶんからかっていたでしょう。この人は国土地理院で隣にいた人にかっさらって来たって□えっ、そう？ 私はあの真面目な松井先生が「熊本平野はロマン

ス平野です、ホホホ」とおっしゃっていたので、巡検が縁かと思っていただけ□二年の時、式先生が担任だったのでお宅に伺ったことがあるのよ。とても子煩悩で優しくったわよ。その時小学生だったお子さんももう立派に成長されて。

英語の原書購読の授業で、私、予習して来なかったので読み間違えて、ドイツ語風に発音しちゃったら、あなたはドイツ語が良くできますねって、見逃して下さった□地図学演習の時、航空写真を立体的に見る方法を教わったでしょう。あれ以来暇な時に天井の模様なんかで試してみると、天井が高く見えて面白いのよ□巡検では先生は歩くのも自転車に乗るのも早くてさあ、やっぱり先生っていうのは何につけても違うんだと実感したわ□卒論指導では思い出がある。私、常識がなかったから、先生に泊まって頂く旅館を取るのに、親にも相談しないで変な汚いところにしてしまったのよ。でも、先生は何もおっしゃらずに黙って受け入れて下さった。今でも気にしているの□卒業後、地名で分からないことがあって訪ねて行ったことがある。そうしたいろいろな資料を出して調べて下さったの。有難いと思ったわ。……。

### 五 中締の挨拶——改心した教え子

私は大学生の時、大学の先生をそれほど偉いと思っていませんでした。特に男性の場合、実業家とか政治家とかもっと男らしい仕事もあると思ったのです。でも、自分が高校教師になり、日夜地理学と取り組んでいると、分かっていないことがたくさんあるのに気づきました。そこで初めて、こういう未知の部分に知的に挑戦することの大変さと素晴らしさに気づいたのです。残念ながら高

校教師では、十分に研究をする余裕がありません。卒業前に、地理学の研究に進む人はいないかと言っていた時、もっと真剣に考えれば良かったと思っています。

式先生、私は年を重ねるにつれて段々、先生の偉さが分かってきました。先生に教えていただいたのは、地理の知識ばかりではなく、ものの考え方、人間の生き方など、実は大変広がったことが、やっと分かってきたのです。このように、分

かりの遅い私たちですが、これからどうぞ、今まで以上にご指導下さいませ。でも、先生がもうこんな奴たちを教えるのはご免だ、もっとフランクに話そうとおっしゃるのでしたら、それも結構、式（先生）次第でございます（笑い・拍手）

（この文は筆者が第13回卒業生に電話で取材し構成したものです。ご協力に感謝します）

（13回生）

## 式先生のこと

滝 沢 由 美 子

初めて式先生にお目にかかったのは実に30年も前のこと、昭和37年4月の入学式後に親子で出席した地理学科のガイダンスにおいてであった。地理学科には巡検という授業があり、泊まりがけで出かけるので親としては、金銭的な面も含めて理解して出してやって欲しい、と一年生の担任が話され、式先生は親からの質問にいくつか答えられたのを覚えている。ガイダンス会場は1学年全員と先生方が一堂に会せるスペースを備えた図書室の一部で、そこでは、一年生は週一回定例で先生方と会食することになっていた。学生数も少なく、国内旅行でさえやっとな若い人の間で盛んになりつつある時代であった。当時のお茶大生は、地理学科だけのことも知れないが、化粧気はなく質実剛健のようなところがあり、勉学は優先させるべきものとして疑いをもたなかった。部活や旅行、アルバイト等で毎日忙しかったが、先生方の指導されることを割合素直に受け入れ、それなりに努力していたと思う。式先生は、そんな我々学生に対して、本質的に誠実で、真面目に接して下さった。そのかわり、筋の通らない話や礼儀を欠いたことには断固反対されたし、注意をなさった。学生にも、きちんとすべきこと、一生懸命勉学することを要求された。それだけに、こちらが直接ぶつける疑問やとまどい、熱意にも丁寧に答えて下さっていた。三年生時の卒論全般の指導で「ハ

イラーテンは卒論が終わるまではしないように。もしするなら卒論に2年かける覚悟でなさい」とおっしゃったのもその例で、徹摩も結婚など考えていなかったが、卒論とはそんなにたいへんなものなのかと認識を新たにし、気を引き締めたことを覚えている。

卒論は式先生の御指導を受けた。調査地を一緒に歩いて下さったので、その折には友達の調査地にも相互に出かけ調査法など、いろいろな事を吸収し学んだ。多くの場合、自転車で廻ったので、自転車が川へ落ちたり、途中で鍵がかかってしまったり立ち往生したり色々なハプニングもあった。

フィールドワークを大切にするというのは地理教室全体の考え方でもあったが、先生は頻りにフィールドに出かけられた。私は卒業後、大学院、教務補佐員各2年の4年間は先生の研究室でお世話になったが、その間、主なものだけでも鹿児島、水戸・日立、八代の各平野の微地形、蒲田川流域の堆積段丘、清津峡、奥日光の山地地形等々の調査に助手として参加させて頂いた。現地調査のみでなく、屋内作業である空中写真判読、製図やまとめ、さらに日常の会話の中での教育論や人生論等々数多くのことを先生から学び考えた時期であった。

先生の専門分野は地形学で、人と話をするのが嫌いで氷河地形を卒論のテーマに選ばれたと伺っ